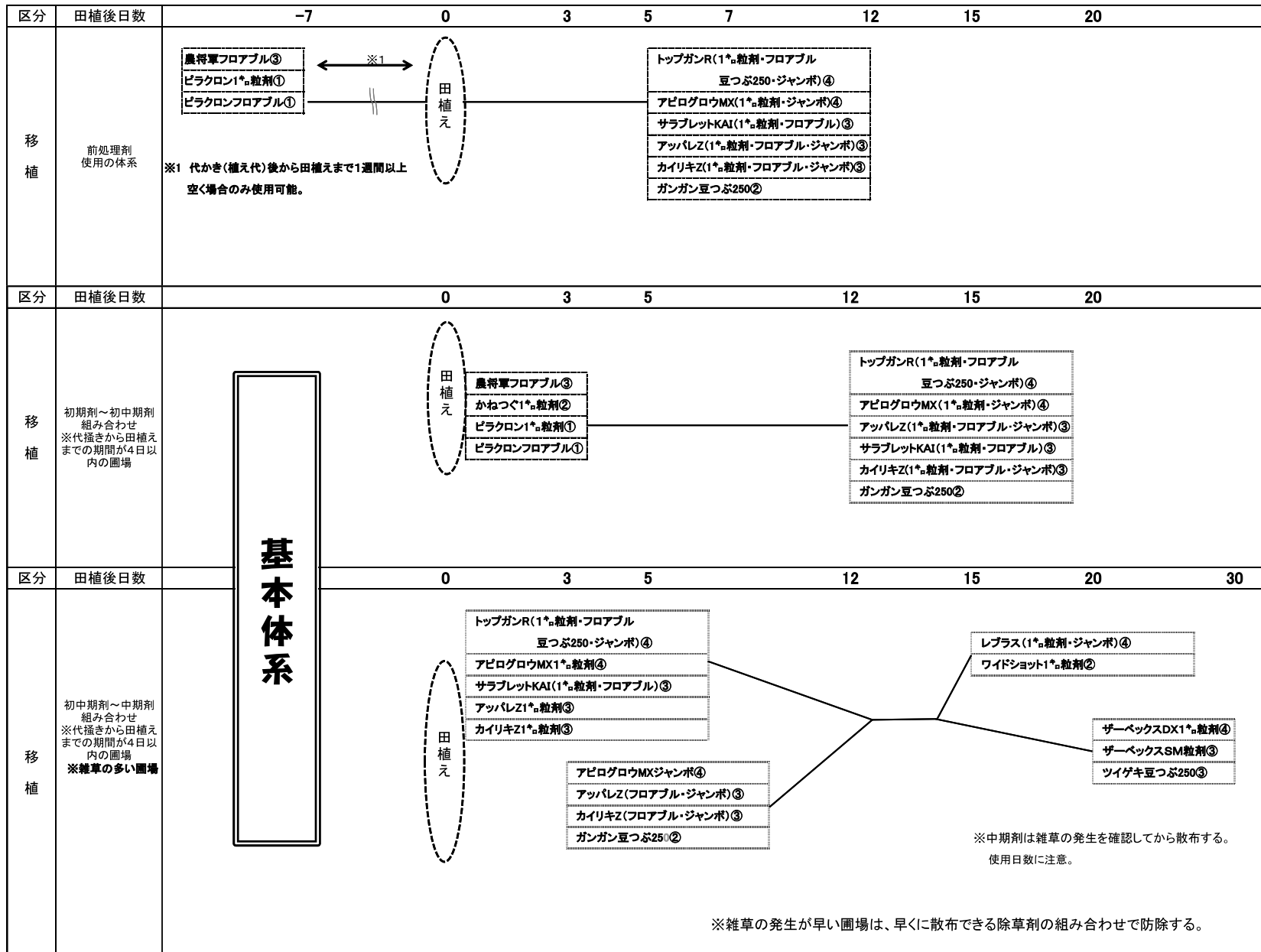


水田除草剤処理体系

<基本方針> 安全安心な上伊那米づくりに向けて環境保全に取り組み、除草剤の使用回数・使用量を減らします。

1. ていねいな代かき、水管理により、除草剤の効果を高めましょう。
2. 体系処理を基本とし、雑草の発生が多い圃場は、初中期一発剤と中期剤の組合わせで処理しましょう。
3. 農業散布後は、止水管理(7日間)を徹底し、河川への流失を防ぎましょう。
4. 除草剤は水が落ちついてから散布し、3~4日水を動かさないと効果が高まります。
5. 減農薬・化学肥料栽培並びに有機栽培については別途基準を定め、取り組みます。
6. 処理時期、雑草の種類、処理方法については必ず裏面でご確認ください。



移植栽培

アオミドロ・ヒルムシロ

- モゲトン粒剤①
: スポット処理も有効
- モゲトンジャンボ①
: 藻の常発圃場で発生前に散布

ヒエ

- ヒエクリーン1*。粒剤①
- ヒエクリーン豆つぶ250①
: ヒエの4葉期までに使用

クリンチャージャンボ①

- : 20個使用でヒエ3葉期まで
- : 30個使用でヒエ4葉期まで
(散布量で使用時期が異なるので注意する。)

トドメMF1*。粒剤①

- : ヒエの5葉期までに使用

トドメMF液剤

- : 落水処理する(ヒエ7葉期まで)

広葉雑草

- バサグラン粒剤①
- バサグラン液剤①
: 落水して処理する

シズイ

- レプラス1キロ粒剤④
- レプラスジャンボ④
- ワイドショット1キロ粒剤②
- バيسコープ1キロ粒剤②
: 湛水処理
(効果がでるまで時間がかかる)

ヒエ・広葉雑草同時

- クリンチャーバスME②
: 落水処理する(ヒエ5葉期まで)
- アレイルSC②
: 湛水またはごく浅く湛水処理
(ヒエ5葉期まで)